令和元～2年度　長崎県教育委員会公募制研究指定事業
令和元～2年度　長与町教育委員会指定

研　究　紀　要

研究主題

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
～学ぶ楽しさを実感できる授業デザインの創造を通して～

長与町立長与中学校

１　主題設定の理由

平成２９年３月に新学習指導要領が告示され、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことが示された。予測が困難な時代に向けて、学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくことと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。

本校の生徒は日々の学習活動はもちろん、行事や部活動にも「全力」で取り組み、努力を惜しまない。一方で、与えられた課題には熱心で、授業に積極的に参加するものの、生徒が自分自身に必要な学習は何かを考えながら「主体的・意欲的に学ぶ」ことには、課題が残っている。

そこで本研究では、生徒の主体性と深い学びを生む対話的活動を引き出す要件や具体的な手立てを明らかにすることを通して、生徒が学びの楽しさ、喜びを実感できるようにしたい。また、働き方改革が進む中にあっても、授業の充実・改善のために学び、成長し続ける教師・学校であるために、指導力と日々の授業の質的向上に直結する効果的･効率的な研修方法の創意工夫を通して、互いに学び、高め合う教員文化の醸成を目指し、この研究主題を設定した。

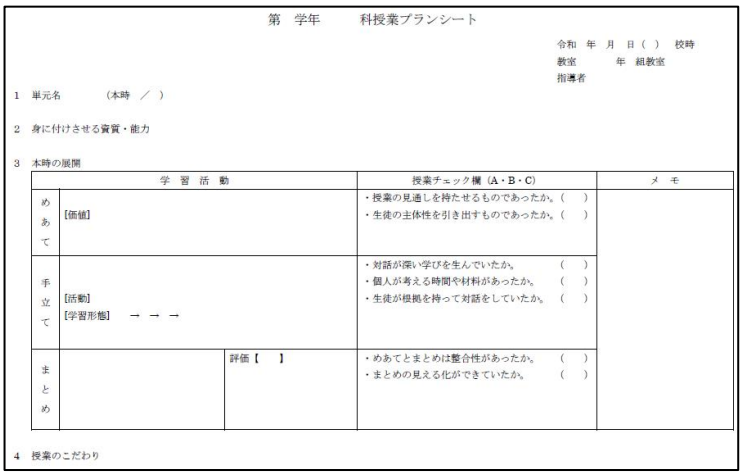
２　研究方法及び内容

深い学びを生む生徒の主体性を引き出すことを授業づくりの共通指針として、日々の「実践と省察」を研究の基盤とした。そこで、研究組織を授業実践部、調査分析部、情報発信部の３部会に分け、以下のように活動した。

〇授業実践部
- ・主体的な学びにつながるめあてとまとめ
- ・深い学びを生む対話的な学び

〇調査分析部
- ・学習アンケートの実施と分析
- ・授業プランシートの検証・改善

〇情報発信部
- ・生徒と保護者に向けた広報活動
- ・研究の成果や課題の共有


第　学年　　科授業プランシート

令和　年　月　日（　）　校時
教室　　年　組教室
指導者

1　単元名　　（本時　／　）

2　身に付けさせる資質・能力

3　本時の展開

	学　習　活　動		授業チェック欄（A・B・C）	メ　モ
めあて	[価値]		・授業の見通しを持たせるものであったか。（　） ・生徒の主体性を引き出すものであったか。（　）	
手立て	[活動] [学習形態]　→ → →		・対話が深い学びを生んでいたか。（　） ・個人が考える時間や材料があったか。（　） ・生徒が根拠を持って対話をしていたか。（　）	
まとめ		評価【　】	・めあてとまとめは整合性があったか。（　） ・まとめの見える化ができていたか。（　）	

4　授業のこだわり

図１　授業プランシート

授業における生徒の実態に基づき、どのような学習の場の設定と教師の関わりによって対話的な学びが生まれ、深化が図られるのかを解明するため、指導案を簡略化した図１の授業プランシートを活用して、授業者の意図を把握するとともに、図２のマトリックス法を用いて授業研究を行った。

本年度は新型コロナウイルス感染予防を図りながら、教育活動を行わなければならないため、「対話」だけでなく、生徒の主体性を引き出すめあてと、学びを深める対話的な活動を柱として授業改善を行った。

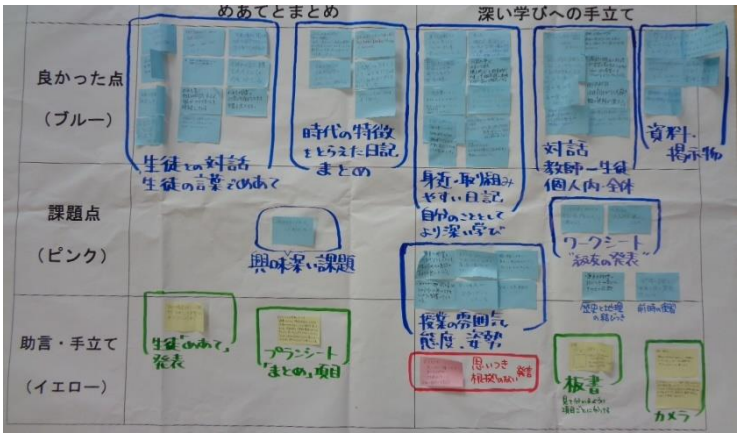
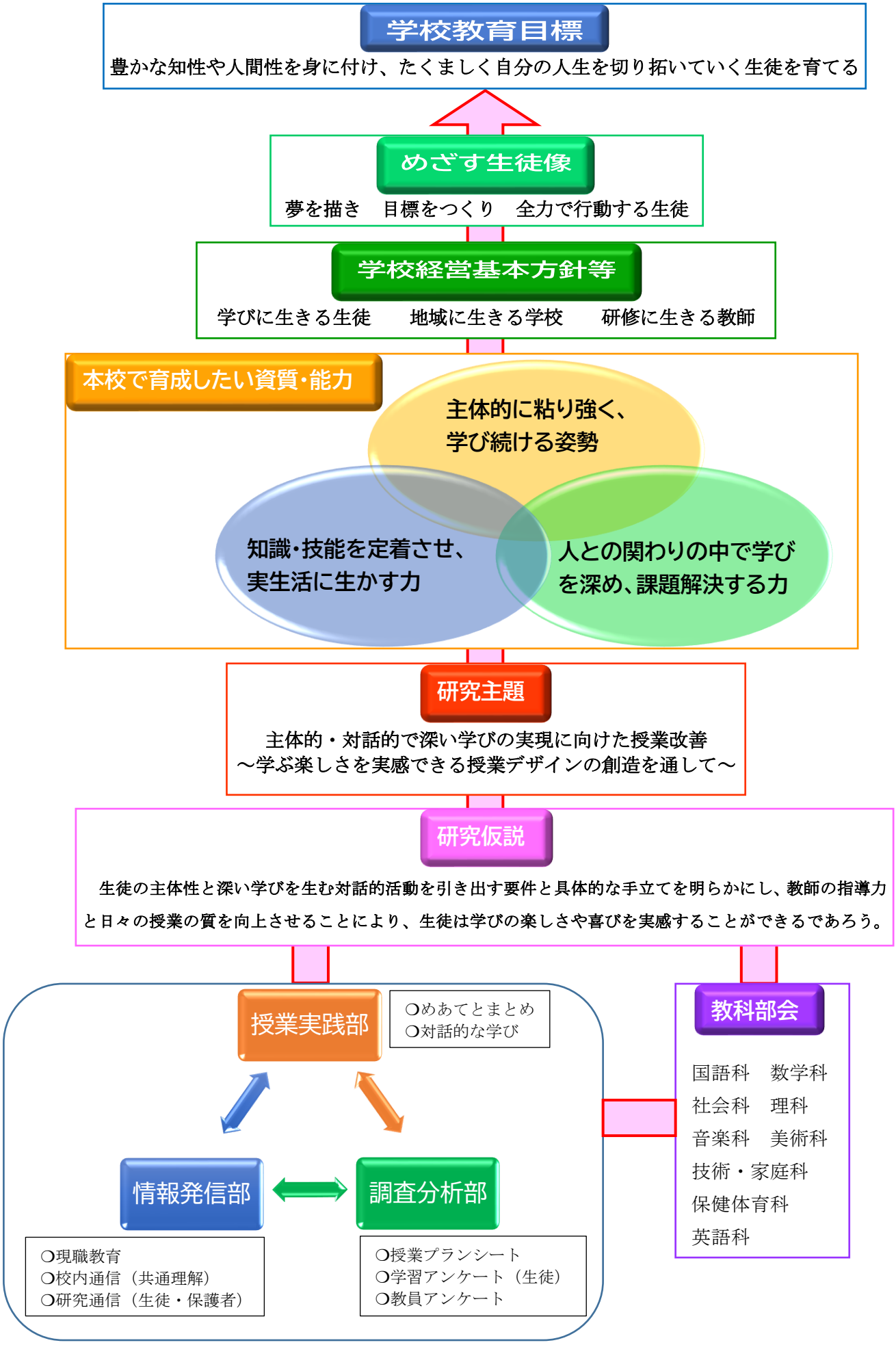


図２　マトリックス図

３　研究構想


学校教育目標
豊かな知性や人間性を身に付け、たくましく自分の人生を切り拓いていく生徒を育てる
めざす生徒像
夢を描き　目標をつくり　全力で行動する生徒
学校経営基本方針等
学びに生きる生徒　地域に生きる学校　研修に生きる教師
本校で育成したい資質･能力
主体的に粘り強く、学び続ける姿勢
知識･技能を定着させ、実生活に生かす力
人との関わりの中で学びを深め、課題解決する力
研究主題
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
～学ぶ楽しさを実感できる授業デザインの創造を通して～
研究仮説
生徒の主体性と深い学びを生む対話的活動を引き出す要件と具体的な手立てを明らかにし、教師の指導力と日々の授業の質を向上させることにより、生徒は学びの楽しさや喜びを実感することができるであろう。
授業実践部
❍めあてとまとめ
❍対話的な学び
情報発信部
❍現職教育
❍校内通信（共通理解）
❍研究通信（生徒・保護者）
調査分析部
❍授業プランシート
❍学習アンケート（生徒）
❍教員アンケート
教科部会
国語科　数学科
社会科　理科
音楽科　美術科
技術・家庭科
保健体育科
英語科

４　授業実践部

昨年度から「めあて」と「まとめ」、そして「対話」を中心に授業改善に取り組んできた。「めあて」は、①「ゴールの姿（見通し）」、②「主体性を引き出すもの」であることを共通理解して取り組んだ。めあての具体的な表現やまとめについては教科部会で決め、めあてとまとめ一覧（図３）にまとめ、全職員で共有した。

教科	めあて	まとめ
国語	・国語科における「一単元」を、「一教材・一題材」ととらえることとする。 ・めあての文言に、3つの「学習課題」（便宜的にＡＢＣとする）を入れるようにする。 Ａ課題…年間計画中の指導事項（資質・能力）。単元を貫く大きなめあて。 Ｂ課題…1単位時間での具体的な思考操作。 Ｃ課題…1単位時間での具体的な言語活動。 （文学作品での例） Ａ　芥川作品にみられる表現の効果について自分の考えを持つために、 Ｂ　平常の文と芥川の表現を比較して、 Ｃ　作品中の名文を紹介する。 ※提示する時にＡＢＣの順序は変えてもよい。 ・例えば、ＡＢＣを色別に印刷して提示する。Ａは単元中はずっと同じとなる。	・1単位時間の「まとめ」は、ＢＣ課題が「できたかどうか」をまとめとする。評価は教師で行う。単元のまとめは、Ａ課題ができたかどうかをまとめとする。 ・「授業で生徒がするまとめ」と「教師による評価」は同じものになるのか？どうとらえたらよいのか？ 【深い学びの姿】 ・その時間で身に付けるべき力を、「実社会で活用できるかどうか」を一つの基準としてはどうか？意味調べをして終わりではなく、その言葉は他にはどのような文中で使えるか、教材文中ではどのような意味なのか理解するなど。 ・身に付けるべき力をより深めたか。
社会	教科書にあるめあてを生かして教師主導でめあてを提示する ※生徒の関心や意欲を高めるために、諸資料を用いる	学習した内容（ある出来事や事象に関する個別的記述的な知識ではなく、理由や関係を明示した説明的知識）を文章表現し、他者に説明できれば学習内容を理解したと判断する。
数学	身につけさせたい技能や使わせたい方法や手段を明示しためあて （例）連立方程式を使って問題を解決することができる	本時の学習内容を使う評価問題を解くことをまとめとする。 評価問題が解けたら本時の学習内容を理解したと判断する。

図３　めあてとまとめ一覧

対話的な活動においては、「教師と生徒との対話」「資料との個人内対話」に絞り取り組んだ。深い学びにつながる対話的な活動を考えるため、図４のように整理し、授業プランシートと関連付けた。

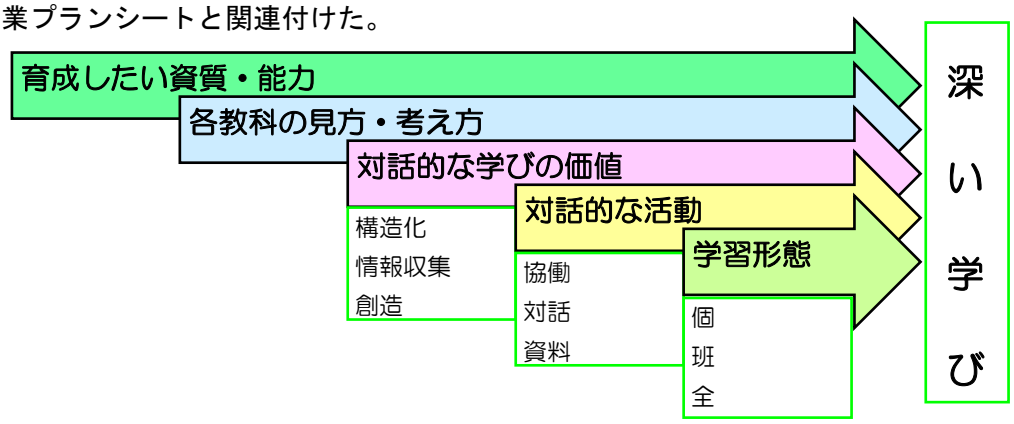
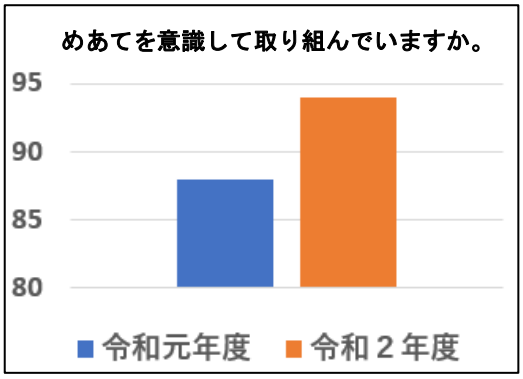
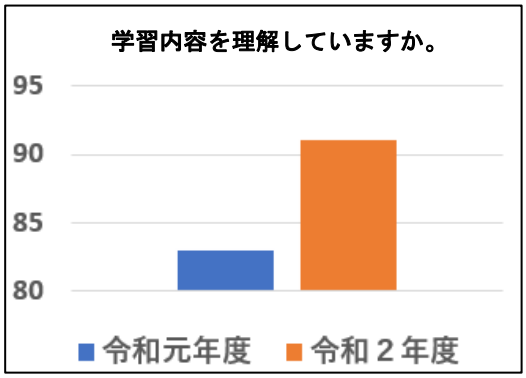


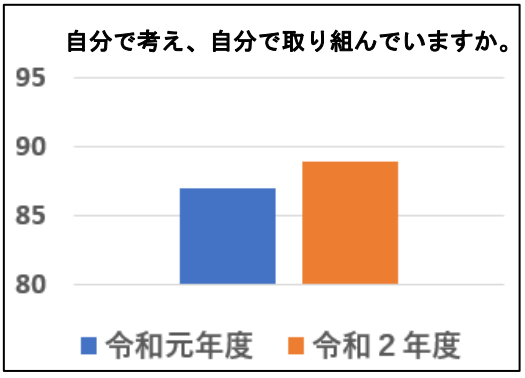
図４　深い学びにつながる対話的な活動

５　調査分析部

２年間の学習アンケートを比較し、以下のことが分かった。







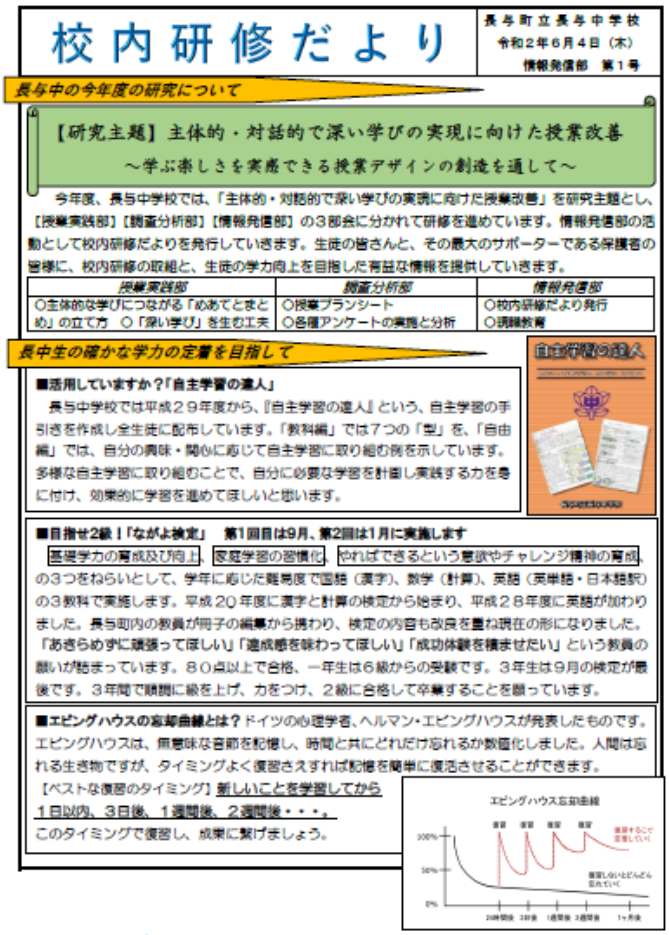
〇生徒は、めあてを意識することや、学習内容を理解する割合が高まった。

▲教師のめあて提示率は 100%だが、生徒がめあてを意識している割合は 100%でなかったため、めあての書き方や提示の仕方が今後の課題である。

※自分で考え、自分で取り組んだ内容として、「自分の考えを書くとき」が最も多く、次に「問題を解くとき」となった。アウトプットを求めると生徒は自ら考える傾向がみられた。

６　情報発信部

各学期２～３回の発行。第１号では「ながよ検定」「自主学習の達人」など、すでに取り組んでいる内容を紹介した。第２号では調査分析部のアンケートの分析結果や研究授業の様子を掲載した。今後は、授業実践部、調査分析部との横のつながりを持ちながら、教育理論や書籍紹介なども含め効果的に発信していく。



校内研修だより

長与町立長与中学校
令和２年６月４日（木）
情報発信部　第１号

長与中の今年度の研究について

【研究主題】主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
～学ぶ楽しさを実感できる授業デザインの創造を通して～

今年度、長与中学校では、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」を研究主題とし、【授業実践部】【調査分析部】【情報発信部】の３部会に分かれて研修を進めています。情報発信部の活動として校内研修だよりを発行していきます。生徒の皆さんと、その最大のサポーターである保護者の皆様に、校内研修の取組と、生徒の学力向上を目指した有益な情報を提供していきます。

授業実践部	調査分析部	情報発信部
○主体的な学びにつながる「めあてとまとめ」の立て方　○「深い学び」を生む工夫	○授業プランシート ○各種アンケートの実施と分析	○校内研修だより発行 ○情報教育

長中生の確かな学力の定着を目指して

■活用していますか？「自主学習の達人」
長与中学校では平成２９年度から、『自主学習の達人』という、自主学習の手引きを作成し全生徒に配布しています。「教科編」では７つの「型」を、「自由編」では、自分の興味・関心に応じて自主学習に取り組む例を示しています。多様な自主学習に取り組むことで、自分に必要な学習を計画し実践する力を身に付け、効果的に学習を進めてほしいと思います。

■目指せ2級！「ながよ検定」　第1回目は9月、第2回は1月に実施します
基礎学力の育成及び向上、家庭学習の習慣化、やればできるという意欲やチャレンジ精神の育成、の３つをねらいとして、学年に応じた難易度で国語（漢字）、数学（計算）、英語（英単語・日本語訳）の３教科で実施します。平成２０年度に漢字と計算の検定から始まり、平成２８年度に英語が加わりました。長与町内の教員が同子の編集から携わり、検定の内容も改良を重ね現在の形になりました。「あきらめずに頑張って欲しい」「達成感を味わって欲しい」「成功体験を積ませたい」という教員の願いが詰まっています。８０点以上で合格、一年生は６級からの受験です。３年生は９月の検定が最後です。３年間で順調に級を上げ、力をつけ、２級に合格して卒業することを願っています。

■エビングハウスの忘却曲線とは？ドイツの心理学者、ヘルマン・エビングハウスが発表したものです。エビングハウスは、無意味な音節を記憶し、時間と共にどれだけ忘れるか数値化しました。人間は忘れる生き物ですが、タイミングよく復習さえすれば記憶を簡単に復活させることができます。
【ベストな復習のタイミング】新しいことを学習してから１日以内、３日後、１週間後、２週間後・・・。
このタイミングで復習し、成果に繋げましょう。

校内研修だより

長与町立長与中学校
令和２年７月３１日（金）
情報発信部　第２号

授業に関する意識調査（生徒アンケート）より

昨年度から引き続き、授業に関する意識調査（生徒アンケート）を実施しています。一部紹介します。
＊資料の数値は生徒の回答を百分率で表示したものです。肯定的な回答（１と２）の回答数の合計を（学年）の回答数の合計で割ったものです。

Q：めあてを意識して授業に取り組んでいますか。

	R1	R2
第１学年	89	93
第２学年	88	90
第３学年	92	94

○９０％以上の生徒が肯定的に答えている。
○第２学年は昨年度から１ポイント、第３学年は昨年度から６ポイント向上した。
⇒授業の中で再度“めあて”を意識付けしたり、学習課題や導入場面を工夫したりすることで、１００％を目指す。

Q：家庭学習の時間

R1	2時間以上	1時間以上	30分以上	30分未満
第1学年	24	42	21	15
第2学年	29	39	22	12
第3学年	53	27	9	11
R2	2時間以上	1時間以上	30分以上	30分未満
第1学年	35	39	21	5
第2学年	39	38	18	4
第3学年	53	31	12	3

○第２学年、第３学年ともに、昨年度と比べて２時間以上学習する生徒の割合が増えた。
○３年生は、２時間以上学習する生徒の割合が５０％以上であった。
⇒各学年とも、３０分未満の生徒がいるため、自主的に家庭学習に取り組む手立てが必要である。

研究授業から　～「見通し」をもって取り組める「めあて」～

めあて ➡ ワクワク ➡ 「なぜ？」「どうして？」 ➡ 対　話 ➡ めあて達成

研究を進める中で、「生徒のワクワクを引き出す」、そして見通し（ゴールの姿）を生徒が持てるには、「めあて」の提示が大切である」ことを確認しました。そして授業中は“めあて”をもとに、生徒の「なぜ？」「どうして？」という興味・関心を引き出す生徒と教師、または生徒同士の対話を行い、生徒が主体的に深く学べる授業を展開していくことを目指しています。
６月２５日(木)に行われた研究授業の中でも、主体性を持たせる生徒と教師の対話が見られました。感染症防止策を行いながらの授業ではありますが、深い学びにつながる「非中対話」を創り出すことができないかと考え、より充実させていこうと全職員で取り組んでいます。

■夏休みは、力の向上を図る上で、大きな機会■
身に付けられる力を左右するのが夏休みの学習量です。夏休みは、じっくりと時間をかけて取り組むチャンスです。このタイミングで復習し、成果に繋げてほしいと思います。３年生は、１１月下旬には、希望進路を最終的に決定することとなってきます。

～　夏休み中に行う学習のすめ　～
○　１学期の学習内容をしっかりと復習する。（３年生は、１，２年生の復習も！）
○　問題量をこなして、基本的な内容を理解するだけでなく、応用力も身に付ける。

実力テスト(8/26, 27)　・　ながよ検定(9/9, 10, 11)
受験　／　受検

７　研究のまとめ

＜成果＞

新学習指導要領で示されている「主体的」な取組を考える上で、めあての重要性が明確になった。学習アンケートの結果から主体的な学びを進めるためには「めあて」によって生徒に疑問を抱かせることと、学習の見通しを持たせることが大切であることを確認した。このことにより、昨年度より教師側の「めあて」に対する意識が高まった。（教師アンケート 5.5%の上昇）

「対話的」な活動では、目的に応じて対話的な活動や形態を考え、最後は個人でじっくりと考えることが大切であるとわかった。特に先哲の考えから学ぶ「資料」では個人でしっかりと時間を確保し、考えさせ、作業をさせることが重要であると確認された。

多くの職員が授業プランシートに対して従来の学習指導案よりも負担は少ないと感じており、使い易さも肯定的に捉えている。また、日々の授業のポイントや研究を進める上での共通の視点を設定することができた。

＜課題＞

新型コロナウイルス感染症防止対策により生徒同士で対話的な学びの「協働」を深めることができなかったため、収束後に改めて研究を進めていきたい。授業プランシートについては、前時までの授業の流れや今後の見通しがわかりにくい面があり、必要に応じて単元計画を付け加える必要がある。具体的な学力の向上を明確にするために、全国学力・学習状況調査や長崎県学力調査、標準学力検査等を、今後も分析していく必要がある。